

## 札幌市立ひがしなえぼ幼稚園の取組【雪に関する教育課程】

### 1 研究のねらい

本園では、今年度の研究主題を幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて『きらきらわくわくする遊び』とはとし、幼児が“きらきらわくわく”と心を弾ませながら夢中になって遊び込む姿をじっくりと探り、学びや成長に繋がる経験ができるような教師の関わり方や環境の構成について実践研究を重ねてきた。

積雪のある札幌の冬の戸外環境は、幼児にとって全身で雪の感触を味わい、思考を巡らせながら遊ぶことができる大変有効な環境である。雪遊びを通して、心と体が動く“きらきら”した姿や、やってみたくなる“わくわく”する体験や環境の在り方について研究を進め、主体的に雪に親しみながら遊ぶ子どもを育てていきたいと考えた。

また、近隣の小学校や児童会館との連携を継続し、今年度の取組や成果を家庭や地域に発信していきたい。

### 2 取組内容

#### (1) 保育環境の工夫

##### ① 園庭の環境

例年に比べて積雪が少なかったが、できる高さで雪山を作り、ボブスレーやチューブを準備し「雪遊びをしたい！」と思える環境作りをした。雪山は幼児が自分の足で登ることができるように階段を作り、滑り降りた下面は十分な幅と長さを確保し安全面にも配慮した。そして、普段から使用していたバケツやシャベル、お玉などと、より雪に触れて遊ぶ面白さや楽しさを味わえるように、新たに雪玉作り器や雪に色を付ける入浴剤や食紅、色水の色がわかりやすいように白いバケツも準備した。

##### ② 雪での遊び

雪玉作り器は初めて経験する幼児がほとんどだったので、教師が作り方を知らせることで興味をもち「やってみたい！」とワクワクした気持ちになり夢中になって作っていた。自分たちで作った雪玉を3歳児は「卵」に見立てボブスレーに乗せ「卵屋さん」として遊び、5歳児は水を混ぜシャーベット状の物や、食紅の色水で色付けて雪玉を作り、凍らせて「宝石」に見立てていた。

よりきれいな宝石作りをしようと、雪と水の配合や色の濃さなど工夫する様子があった。他にも、雪深い所を漕いで歩くことや雪山の斜面を登る、滑るなどを楽しんでいる。全身を使って遊ぶことは、心身の発達にも繋がると言える。



## (2) 地域の環境との関わり

### ① 小学校との雪遊び

近隣の小学校との連携として、5歳児と1年生の交流を行っている。1年生が「雪のあて」「雪のブロック積み」「雪玉投げ」等、様々な雪遊びを考え準備し、年長児を招待してくれた。

幼児は、校庭の広々とした空間や積雪の深さに心を弾ませ、雪での遊びを広げる刺激となったり、1年生への憧れをもったりする貴重な体験をした。



### ② キャンドルナイトの取組

昨年度から近隣の児童会館を会場に、地域の商店街や中学校と協力してスノーキャンドルを作って飾る地域行事に参加している。今年度は5歳児が『自分たちで考えて作ろう』という目的をもって取り組むこととした。「バケツに雪を集めてひっくり返そう。」「きれいな色をつけたら、きらきらして宝石みたいになるかな。」と考えを出し合い、友達と一緒に作ることを楽しんだ。雪質の違いに気付き、水の量を調整して固めたり、バケツや雪玉作り器などの道具を選んだりしながら、思い通りの形にするために試行錯誤する姿が見られた。完成したスノーキャンドルにろうそくの炎が灯ると、幼児は「うわあ！」と歓声を上げ、うっとり見つめ、友達と抱き合って喜んだ。



## 3 成果と課題

幼児は、様々な道具を活用しながら雪に触れていくことで、雪質の変化に気付いたり、より変化を楽しもうと考え工夫したりしながら、他学年からも刺激を受け積極的に雪遊びを楽しんでいた。ルーペで雪の結晶を観察するなど自然現象に興味や関心をもち“きらきらわくわく”と心を動かし、夢中になって遊んでいる。これらの雪遊びを通しての幼児の学びは、学級便りや掲示、ホームページなどで保護者と共有しているところである。

今後も、多様に変化する雪や氷の環境に幼児自ら好奇心や探求心をもって関わり、雪の感触を全身で味わい、存分に楽しむことができるよう環境を整え、雪に直接関わる体験を通して幼児の興味や関心が一層広がっていくような働きかけに努めたい。また、今年度の取組や成果をより分かりやすく家庭や地域に発信し、今後も地域とのつながりを大切に共に子どもたちの成長を育みたい。